

はじめにー

皆さんが普段目にしている風景、最寄りの駅までの道のり、車や電車の車窓、学校や会社の窓からの景色、そこには様々なものがある。青い空や街並み、雄大な大阪湾。その中に無意識下に紛れ込んでいるものがある。それは六甲の山々だ。空や普段の街並みを見ても気につけないのと同様、この六甲の山々に関しても深く知る前にすでに関心をなくしてしまっている方も多いのではないだろうか。

しかし、六甲の山々には多くの魅力がある。豊かな自然、壮麗な景色、歴史のある建築物、雰囲気のある登山道。どれも日常では味わえないものである。しかし、それは我々のすぐそばにある。神戸という独特な地形が生み出した恩恵である。

今一度本書を通して興味を持ち、我々が普段住んでいる町の新たな一面を発見してほしい。そして実際に山に赴き、その雄大さ、美しさを身をもって体感していただきたいと思う。

目次一

第1章

鉢伏山	・ ・ ・ ・ ・	p. 7
旗振山	・ ・ ・ ・ ・	p. 11
鉄拐山	・ ・ ・ ・ ・	p. 13
おらが山	・ ・ ・ ・ ・	p. 17
梶尾山	・ ・ ・ ・ ・	p. 21
横尾山	・ ・ ・ ・ ・	p. 23
東山	・ ・ ・ ・ ・	p. 25
高取山	・ ・ ・ ・ ・	p. 29
菊水山	・ ・ ・ ・ ・	p. 33
鍋蓋山	・ ・ ・ ・ ・	p. 35
再度山	・ ・ ・ ・ ・	p. 39
摩耶山	・ ・ ・ ・ ・	p. 43
六甲山	・ ・ ・ ・ ・	p. 47
大平山	・ ・ ・ ・ ・	p. 51
七兵衛山	・ ・ ・ ・ ・	p. 55
諏訪山	・ ・ ・ ・ ・	p. 57
錨山	・ ・ ・ ・ ・	p. 61
市章山	・ ・ ・ ・ ・	p. 63
ごろごろ岳	・ ・ ・ ・ ・	p. 67

第2章

登山の注意点	・ ・ ・ ・ ・	p. 71
ロックガーデンⅠ	・ ・ ・ ・ ・	p. 73
ロックガーデンⅡ	・ ・ ・ ・ ・	p. 83
五六奥道	・ ・ ・ ・ ・	p. 93
魚屋道	・ ・ ・ ・ ・	p. 101
上野道	・ ・ ・ ・ ・	p. 105
須磨－再度道	・ ・ ・ ・ ・	p. 113
六甲全山縦走路	・ ・ ・ ・ ・	p. 125

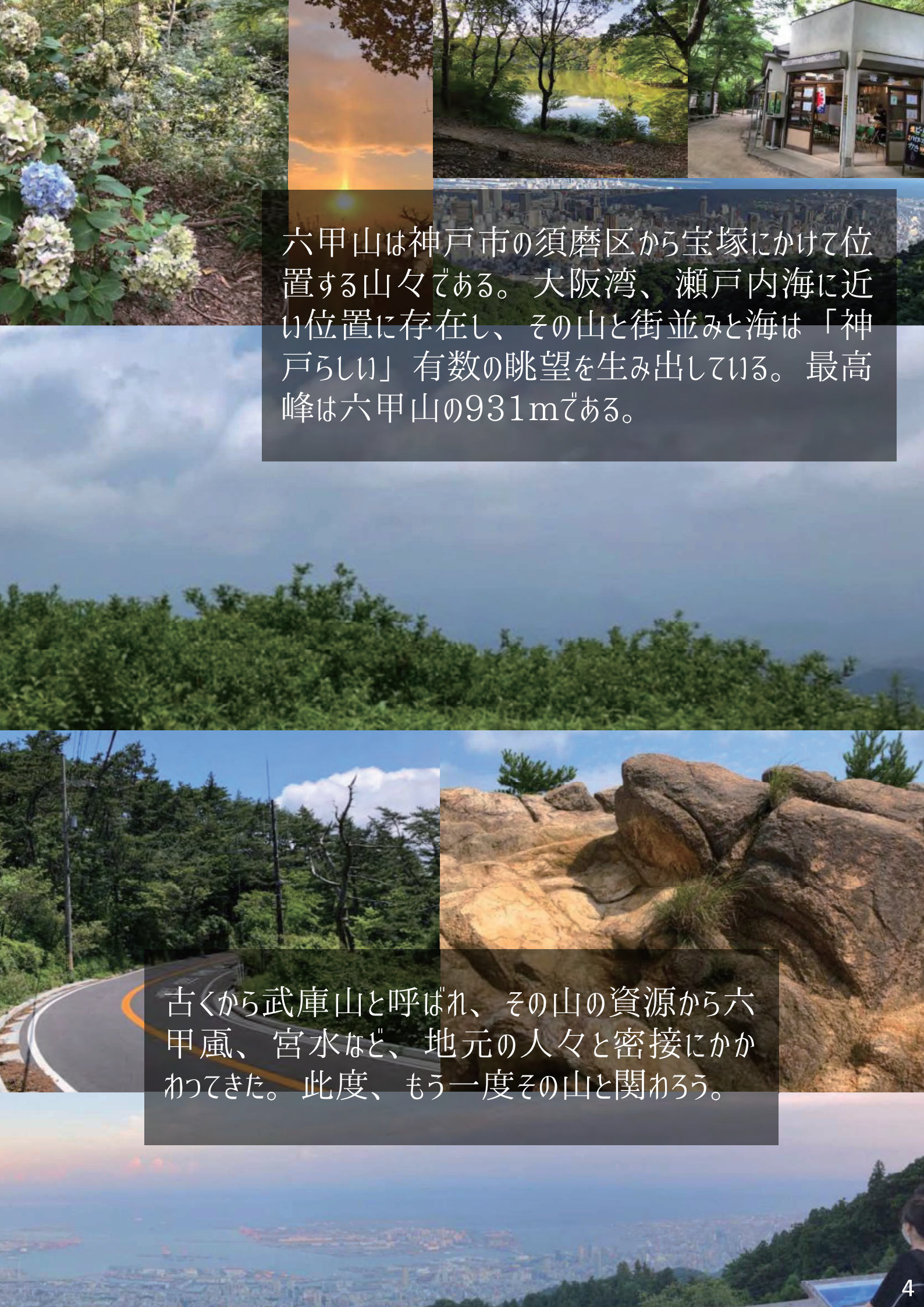
第3章

六甲山と大阪城築城	・ ・ ・ ・ ・	p. 153
甲山史跡探検コース	・ ・ ・ ・ ・	p. 159
六甲山周囲の雨乞い	・ ・ ・ ・ ・	p. 169
再度山の伝説	・ ・ ・ ・ ・	p. 177
有名な磐座	・ ・ ・ ・ ・	p. 179

六甲山地

山体は六甲変動と呼ばれる地殻変動によって、大阪湾の沈降に伴って900mまで隆起した。主に花崗岩から形成された山であり、石材としても有用なことから古くから掘削されてきた。明治以前は禿山であったが、戦前の人々の力によって今の豊かな緑の姿となった。





六甲山は神戸市の須磨区から宝塚にかけて位置する山々である。大阪湾、瀬戸内海に近い位置に存在し、その山と街並みと海は「神戸らしい」有数の眺望を生み出している。最高峰は六甲山の931mである。

古くから武庫山と呼ばれ、その山の資源から六甲風、宮水など、地元の人々と密接にかかわってきた。此度、もう一度その山と関わろう。

なぜ命がけでエヴェレストに登るのだ？

WHY CLIMB MOUNT EVEREST?

そこに山があるからだ

—BECAUSE IT IS THERE

George Herbert Leigh Mallory (1923)

意訳 藤木 九三 (1954)

第1章

六甲山系のデータ



Data of ROKKO

六甲山系には六甲山を代表として摩耶山や再度山など、多くの山々が存在しており、その数は50を超える。有名ではない山も数多くあり、皆さんが知らないであろう山もこの本で見つけられるだろう。本章では、この本で紹介する登山道で経由する主な山々についての概要や風景などを紹介する。これらの山々の情報を得て、見てみたい景色や歩いてみたい道を見つけ、ぜひその山に訪れてみてほしい。

鉢伏山

Mt.

H a t t i b u s e y a m a

標高

246 m

登頂時間

20 分

所在

神戸市須磨区



第1章 登山データ

この山は、六甲全山縦走路の入り口となる山である。六甲山系で最も海に近く、登山道の視界が開けた部分からは眼下に広がる美しい瀬戸内海を一望できる。

道中には須磨浦山上遊園があり、山頂へはロープウェイでも上ることができる。

かつては摂津国と播磨国の境目であり、源平合戦の一ノ谷の戦いの戦場としても有名である。

この素晴らしい風景を眺めながら登山に胸を躍らせていただきたい。

鉢伏山

Gallery



鉢伏登山道入り口の橋

下には山陽電鉄本線の線路が通る。早朝から始める六甲全山縦走の場合、この地点で海と日の出のツーショットを拝んで士気を高めてから挑むことが可能だ。



鉢伏山登山道

鉢伏山登山道は主に舗装された階段で形成されているため、歩みのテンポがずれた場合疲れてしまうことが多い。そんな時、ふと視界が開けた場所から見える絶景を拝むと疲れが吹き飛ぶ。



鉢伏山山頂

須磨浦ロープウエーを横目に少し進むと鉢伏山山頂の標識が現れる。標高、傾斜ともに軽い運動にはちょうど良く、かつ達成感も得られるため非常におすすめだ。

五六奥道

最高点：931m

総行程：約10km



このコースは、著者が最も歩く登山コースである。市街地以外はほぼ一本道のため道に迷いにくく、登る山もごろごろ岳と六甲山の2つのみであるため手軽である。市街地は本書を頼りにしてぜひ歩いていただきたい。

六甲山

土樋割峠

奥山貯水池

ごろごろ岳

甲陽園駅



S6 DEEP ROAD

五六奥道

1



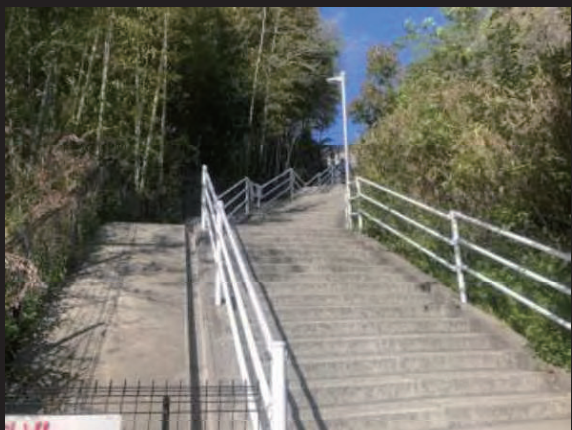
甲陽園
駅の改札
を出て
左斜め前

5



バス停の
少し先を
左折

2



階段を
上り
右折

6



越木岩
神社下を
直進

3



十字路を
左

7



階段方
向へ進む

4



丁字路を
右折

8



長い階段
を直進

9



階段を
上って
左折

その先
右折

13



左の細い
階段を
進む

10



長い坂を
進む

14



階段
上ってすぐ
右折

11



引き続き
直進

15



崩れてる
箇所
に
注意して
進む

12



長い坂を
直進

16



岩場を
登って進む

五六奥道

17



岩場を
登って進む

21



鉄塔の
右側を
進む

18



看板に
沿って
山頂へ
進む

22



道中
眺望良し

19



道なりに
進む

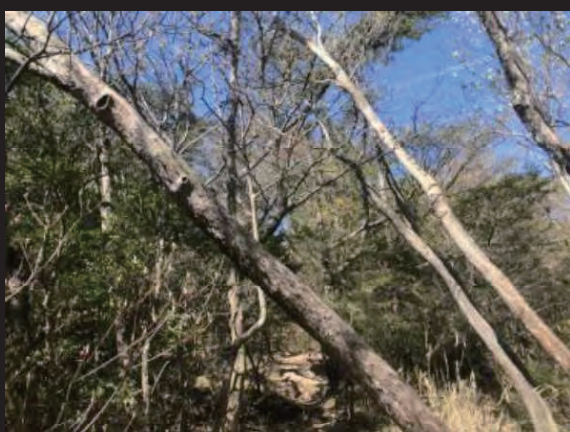
23



登り切った
ら左折

直進すると
山頂

20



道なりに
進む

24



山頂碑

25



道路に
出る

29



矢印に
沿って進む

26



車道を
直進して
奥山
貯水池の
横を進む

30



矢印に
沿って進む

27



矢印に
沿って進む

31



矢印に
沿って進む

小川の
橋を渡る

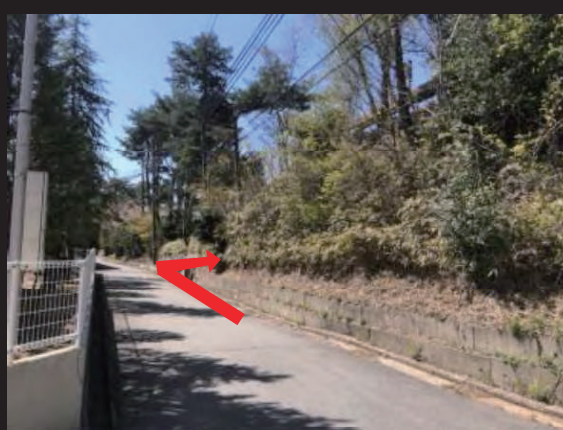
28



矢印に
沿って進む

2番目の
道を左折

32



階段を
上る

五六奥道

33



階段を上ってすぐ
車道を
渡り右折

自販機
あり

37



グネグネの
道を
道なりに
進む

34



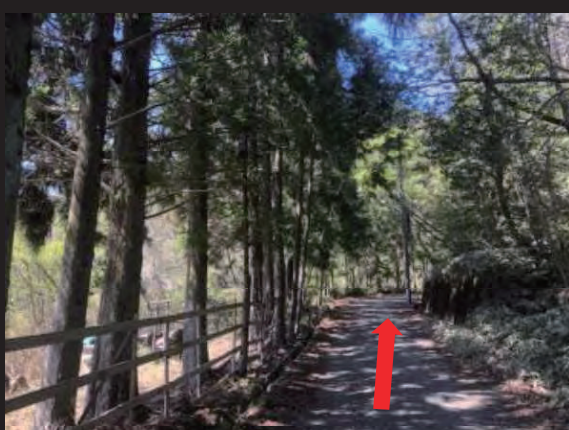
矢印に
沿って進む

35



右側の
道に
矢印に
沿って進む

36



矢印に
沿って進む

ロックガーデン I
37に合流

第3章

六甲山近辺の歴史

History of Rokko

前章では六甲山の様々な登山道を紹介した。お役に立てただろうか。

ここで読者の皆さんに問いたい。登山の楽しみは何であるか。きれいな景色を見れる喜び、山頂に到達した達成感、気持ちいい汗を流せる爽快感など。しかし本章では新たに、歴史や伝説に触れる楽しみについて知ってもらいたい。六甲山系は古代から様々な伝承があり、岩一つにも歴史がある。ここで得た知識を実際に目で確かめてもらいたい。

六甲山と大阪城築城



概要

大阪城は豊臣秀吉が天下統一後、築城を開始した城郭である。豊臣秀吉の死後、1600年の関ヶ原の戦いで石田三成を破った徳川秀吉は征夷大將軍の位を賜り、江戸幕府を開いた。その後、豊臣秀頼氏を大阪の陣で滅ぼした。その際に秀吉が築城した大阪城は焼失した。そこで、豊臣氏の排斥を徹底するために、豊臣色の残る大阪に2代目將軍の秀忠によって大阪城が再建された。落雷や戦争の影響で何度も火事が発生したものの、今残る大阪城の基盤はこの時期に成立した。

有名な磐座 I



有馬温泉の袂岩

袂岩は有馬温泉の太閤橋にある磐座である。磐座とは、そもそも古くから信仰されていたり、神が宿ると考えられている岩のことである。この岩は、ある殿様が鷹狩をしていた時に山中で会った美しい乙女を怪しんで矢を放った時に、その女が防御として使った石で、時とともに大きくなったとされている。この乙女は、湯泉神社に祭られる熊野久須美だといわれている。

また、この岩は大己貴の神が有馬で流行した疫病を払うために六甲山から投げ下ろしたとされている。そのため、なでると病やけがが癒されるとも信じられてきた。今のご時世、もう一度この神様に岩を投げ下ろしてもらいたいものである。

おわりにー

この本を読んでいただきありがとうございました。神戸に住む人にとってとても身近な山々について新しく知れたことはあったでしょうか。

この本の著者も幼いころからボーイスカウト活動の一環で登山をしていました。まだ小さかった頃は体力もなく、なぜこんなことをしているのだろうという気持ちになっていました。しかし、小学校、中学校、高校と成長するにつれて、体力もつき、歩くことそのものの以外にも楽しさがあるのだ、という事に気づきました。著者は皆さんにそのようなことを知ってもらい、より山に関心を持ってもらいたく、この本を制作することにしました。

現在、COVID-19の流行によって外出自粛が呼びかけられています。そのため声を大にして登山に行ってほしいという事はできません。よってこのコロナ禍が収束した後、久しぶりにのびのびとできる外出先として山を選び、この本とともに多くのことを発見してもらえればなと思います。

著書経験がない中での作成であったため、もっと欲しいという情報があったかも知れません。その際は、自ら調べて、そこでそこから派生してどんどん興味を持って行っていただければ幸いです。

弥栄



制作・著作

日本ボーイスカウト兵庫連盟
阪神さくら地区西宮13団ベンチャー隊
貝原汰一

